

芦屋室内合奏団第29回定期演奏会

あの忌まわしき大震災より5ヶ月を経過してもなお不自由な生活を強いられている被災者が多くおられます。当合奏団も本年創立30周年を迎える中、団員とその家族の多くが被災しましたが、ようやく落ち着きを取戻し始めた4月中旬より練習を再開致しました。被災者の皆様が一刻も早く安らかな元の生活に復帰できますようとお念じつつ、敢えて今回の演奏会をチャリティーコンサートと致します。

もとより、アマチュアで日常の仕事や家事の間を縫っての練習ですので、おききづらい点もあろうかと存じますが、是非ご来場の上ご批判賜りますようご案内申し上げます。

1995年6月

芦屋室内合奏団 団長 鳥丸安雄

団員一同

と き : 1995年7月2日(日) 午後2時開演

ところ : 西宮市フレンテホール(JR西宮駅南側、フレンテ西宮5F)

連絡先(Tel 0798-36-7628 竹村まで)

入場無料(当日の募金は阪神淡路復興に役立つよう全額寄付します)

プログラム:

アルビノーニ 「ソナタ第5番 ト短調」

ヴィヴァルディ 「四季」より春・夏

ロッシーニ 「ソナタ第1番 ト長調」

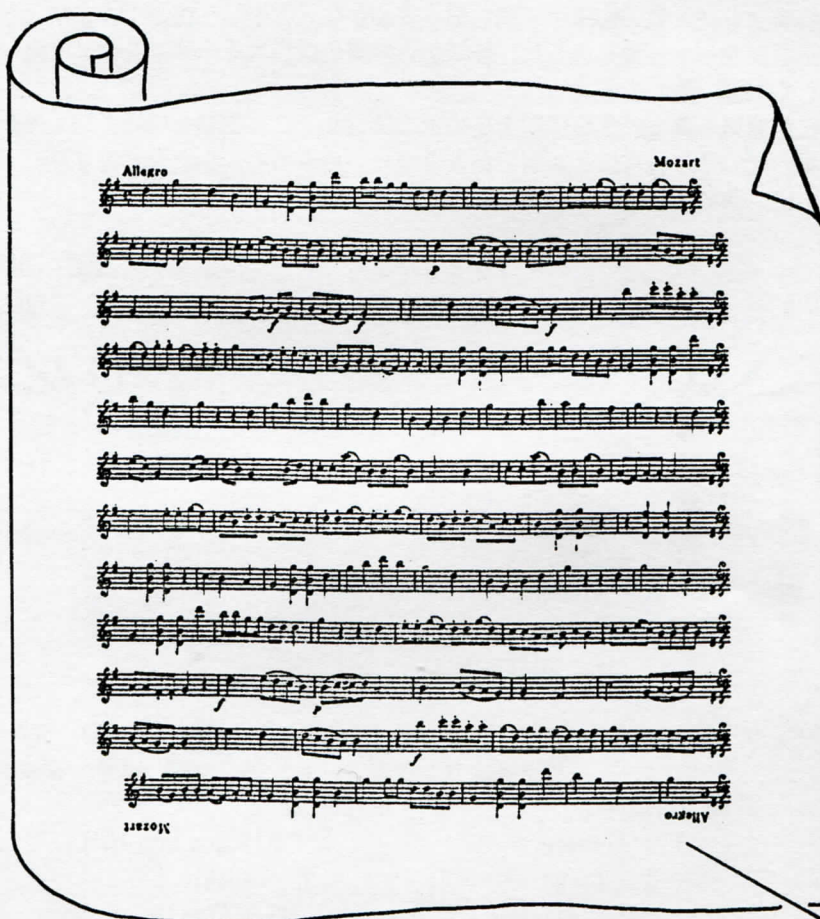
エルガー 「弦楽のためのセレナーデ ホ短調」

指揮 酒井睦雄(相愛大学教授)

芦屋室内合奏団

第29回 定期演奏会

(芦屋室内合奏団創立30周年記念)



西宮市フレンテホール

(JR西宮駅南側、フレンテ西宮5F)

1995年7月2日(日)

午後2時開演(入場無料)

1965年、当時の神戸大学、甲南大学等の学生オーケストラの主席奏者達が集まり、中島良能氏を指揮者とし当団が発足して以来、途絶えることなく70曲にのぼる古今の名曲を演奏して参りました。その間何人ものメンバーが転勤等で入れ替わりましたが、カップル3組を含む家族的な雰囲気の中で創立時と同じ情熱を持ち続けながら月2回の練習を生活の一部とすることにより、当合奏団の活動が私達にとってかけがいのないものとなりました。当合奏団は本年発足30周年、また相愛大学酒井教授にご指導を仰ぐようになって以来20年を経過し、メンバーの平均年齢も50に限りなく近くなっております。昨年8月には我々の良き理解者であり心の支えであった当合奏団創始者橋本宗夫氏が逝去され、またこの度の大震災では団員とその家族の多くが被災した中で、ようやく落ち着きを取戻し始めた4月より練習を再開し本日の記念演奏会にこぎつけました。当合奏団は音楽演奏を楽しむことから始まり、演奏技術の向上と室内楽の普及を目的としているため、今回の演奏会も被災者の皆様が一刻も早く安らかな元の生活へ復帰できますことを念じつつチャリティーコンサートと致しました。皆様からの募金は日本赤十字社を通じて全額寄付致しますのでよろしくお願い致します。

我々まだまだ意気も高く、さらに向上をめざしアンサンブル活動を続けていく所存でございます。日常仕事の間の不十分な技と練習でおききづらい点もあろうかと存じますが、アドバイス賜りますとともに、改めて皆様のご声援に深く感謝致します。

1995年7月

芦屋室内合奏団 団長 鳥丸安雄
団員一同

プログラム

1. アルビノーニ 「ソナタ第5番 ト短調」 op.2-6

- I. Adagio
- II. Allegro
- III. Grave
- IV. Allegro

2. ヴィヴァルディ「ヴァイオリン協奏曲 四季」より「春」、「夏」 op.8-1,2 ヴァイオリン独奏 (春) 鳥丸安雄 (夏) 福永精一

- | | |
|--------------|----------------------|
| La Primavera | L' Estate |
| I. Allegro | I. Allegro non molto |
| II. Largo | II. Adagio |
| III. Allegro | III. Presto |

休憩 (15分)

3. ロッシーニ 「ソナタ第1番 ト長調」

- I. Moderato
- II. Andantino
- III. Allegro

4. エルガー 「弦楽のためのセレナード ホ短調」 op.20

- I. Allegro piacevole
- II. Larghetto
- III. Allegretto

● 本日の演奏曲目について

プログラム最初のアルビノーニ(Albinoni, Tomas, 1671-1750, 伊)は50曲あまりのオペラを作曲した初期のオペラ・ブッファ(喜歌劇)の大家です。協奏曲や室内楽曲の分野でも名曲を遺しており、特に器楽曲は大バッハが賞賛したといえます。本曲はオペラ・ブッファの序曲を思わせる短調の4楽章構成で、全体の構成と骨組みがしっかりしており、バロック音楽として完成度の高い曲です。当合奏団が1988年淡路島国際室内楽コンクールに参加した時の曲目ですが定演では初公開です。

2曲目のヴィヴァルディ(Vivaldi, Antonio, 1678頃-1741, 伊)は教会音楽、器楽曲等多くの作品を遺しました。中でも協奏曲は中心的位置を占めています。本日演奏の「四季」より「春」「夏」はおなじみの曲で当合奏団の定演でも第1回、第11回に続く3回目の登場です。当時の代表的標題音楽と言えますので、楽譜の冒頭に置かれている詩から連想できるキーワードを抜粋します。「春」第1楽章;鳥のさえずり、小川のせせらぎ、稲妻と雷鳴。第2楽章;眠る山羊飼ひ、吠える番犬。第3楽章;ニンフや山羊飼ひの踊り、ミュゼット(牧笛)やバグパイプの陽気な調べ。「夏」第1楽章;うだる暑さ、カッコー/山鳩/ひわの鳴き声、北風、牧童の嘆き。第2楽章;牧童の休息、稲妻と雷鳴による焦躁。第3楽章;夏の激しい天候、稲妻、雷鳴、あられ。

プログラム後半のロッシーニ(Rossini, Gioacchino Antonio 1792-1868, 伊)はイタリアに於けるオペラ・ブッファ作家として金字塔を打ち建てた人で、「セビーリャの理髪師」「ウィリアム・テル」等で有名です。ソナタ第1番は某FM局の音楽番組のテーマ曲としてとりあげられた事もある親しみやすい曲で、ロッシーニ12歳の作です。ヴィオラを欠くため、中音部の重厚さに乏しいですが、高度なテクニックを要求する二つのヴァイオリンパートと独立したチェロとコントラバスの美しいソロのメロディーが魅力的であり、フルコースの途中の口直しのシャーベットのような曲です。アマチュアにとっては難曲の一つでもあり、当定演では初登場です。

エルガー(Elgar, Edward 1857-1934, 英)はパーセル、ヘンデル以来の英国音楽界再生に大きく寄与しました。変奏曲「なぞ」、行進曲「威風堂々」や「愛の挨拶」等で有名です。この「セレナード」の原曲は「春の歌」、「エレジー」、「フィナーレ」からなる「弦楽合奏のための3つの小品」だったといわれます。改作された「セレナード」ではこれらタイトルは削除されているものの曲想はそのまま残っており、第3楽章後半で第1楽章の主題を回想することにより統一性が図られています。本曲は1979年第14回定演以来16年振りの登場ですが、当時酒井先生をお迎えし5年を経過し、当合奏団のカラーが打ち出せたころの思い出深い曲です。

● 指揮者 酒井睦雄

桐朋学園高校音楽科を経て1971年桐朋学園大学卒業。指揮を斎藤秀雄、秋山和慶両氏に、クラリネットを北爪利世、二宮和子、F. フックス各氏に師事。71年より相愛オーケストラ指揮者、77年ザルツブルグにてO. スイトナー氏に師事。同年、東京にてS. チェリビダッケ氏のゼミナールに参加。現在、相愛大学教授として音楽専門家の育成にあたる傍ら、74年より芦屋室内合奏団音楽監督、岐阜県交響楽団常任指揮者、90年より高知室内管弦楽団指揮者を務める等、アマチュア合奏団の発展にも尽力。

● 芦屋室内合奏団 30年の足跡

(定期演奏会曲目、1965~1995) :

- | | | | |
|----------|--|-----------|------------------------|
| ・コレリ | クリスマス協奏曲、サラバンド・ジーク・パディヌリ
合奏協奏曲 op.6-1, 6-6, 6-7 | ・バガニーニ | 弦楽合奏のためのロンド |
| ・バーセル | トランペットと弦楽のためのソナタ、組曲「アラビヤ」 | ・ロッシニ | ソナタ第1番 |
| ・アルビノーニ | 弦楽のためのソナタ第5番、シンフォニアNo.3 | ・ベーム | クラリネットと弦楽五重奏のためのアダージョ |
| ・ヴィヴァルディ | 「四季」、チェロ協奏曲、合奏協奏曲 op.3-3, 3-10~12 | ・シュベルト | 「死と乙女」 |
| ・テレマン | 3つのVn弦楽合奏低音のための序曲、組曲「短調」、Vla協奏曲
組曲「リタ」、組曲第1番、プロクフレーテと弦楽のための組曲 | ・シュトラウス | トリッチ・トラッチ・ポルカ |
| ・ヘンデル | 合奏協奏曲 op.6-1, 6-2, 6-3, 6-5, 6-6, 6-9 | ・ホロヴィン | ノクターン |
| ・ジェミニアーニ | 「ラ・ファリア」 | ・チャイコフスキー | 弦楽のためのセレナード |
| ・バッハ | ブランデンブルグ協奏曲 No.3, 5、ヴァイオリン協奏曲 No.2
ピアノ協奏曲 No.1、オーボエとヴァイオリンのための協奏曲、
2つのヴァイオリンのための協奏曲、管弦楽組曲第2番、第3番、前奏曲「短調」 | ・ドボルザーク | 弦楽のためのセレナード、弦楽のためのワルツ |
| ・グルック | 歌劇「ドン・ジュアン」より | ・グリーグ | ホルベルグ組曲 |
| ・シュターミッツ | マンハイム・シンフォニア第1番 | ・ヤナーチャーク | 弦楽のための組曲 |
| ・ハイドン | 自動オルガンのための3つの小品、オルガン協奏曲第2番 | ・エルガー | 弦楽のためのセレナード |
| ・ホックリーニ | チェロ協奏曲 | ・ヴォルフ | 「イタリアのセレナード」 |
| ・モーツァルト | ディベルティメント K.136, 137, 138, 334、
オーボエ四重奏曲 K.370、戴冠曲、アダージョとフーガ K.546
セレナータ・ノットゥルナ K.239、クラリネット五重奏曲 K.581
交響曲第29番、アイネ・クライネ・ナハトムジーク | ・ニールセン | 小組曲op.1 |
| | | ・レハール | ワルツ「金と銀」 |
| | | ・ホルスト | 弦楽のための組曲「セントポール」 |
| | | ・スーク | 弦楽のためのセレナード |
| | | ・シェーンベルク | 「静夜」 |
| | | ・レスピーギ | リュートのための古代舞曲とアリア第3組曲 |
| | | ・バルトーク | トランシルバニア舞曲、ジューベンルゲン（群） |
| | | ・バーバー | 弦楽のためのアダージョ |
| | | ・ブリテン | シンブル・シンフォニー |

(歴代指揮者) 中島良能(在籍1965-69)、M.H.Shoemaker(同、1972-74)、酒井睦雄(同、1974-)
(客演者) 山内祝子(Vn, 1966)、竹永元子(Pf, 1966)、踏掛うらら(旧姓斉木Fl, 1966)、鈴江苑生
(Vn, 1967)、中島公子(旧姓日下、Pf, 1967)、宮本政雄(Cond, 1968)、槇和美(OB, 1968)、
毛利伯郎(Vc, 1968)、延原武春(Cond, 1969)、北山隆(BI, Fl, 1969)、池田俊(Tp, 1969)、
宮島登美子(Cmb, 1969)、奥田伸吾(Cond, 1971)、曾我部千恵子(Vn, 1975)、白井美和子
(Fl, 1977)、斎藤達男(Vc, 1980)、鈴木雅明(Org, 1984)

芦屋室内合奏団 (団員募集中)

1995年5月設立の芦屋をベースとしたアマチュア弦楽合奏団。練習月2回(日曜)、定期演奏会年1回。
当初はバロックが中心であったが、74年に現相愛大学教授の酒井睦雄氏を音楽監督に迎えて以来、ロマ
ン派から現代音楽に至るレパートリーの拡大や知名度の低い名曲を紹介する等のユニークな活動を行っ
ている。92年には高知室内管弦楽団とのジョイントコンサートを行う等、対外活動も活発化している。
転勤による欠員の補充と若返りのため団員募集中。(連絡先: 06-833-9660 福永まで)

メンバー

音楽監督・指揮	酒井睦雄	Vn:	鳥丸安雄	藤本恭子	福永千江子	中田久仁子
団長/コンサートマスター	鳥丸安雄		福永精一	黒川美恵子	苗村 晶	山田美代子 播磨純一
部長	中田和夫	Vla:	河野建一	中川啓子	竹村久美子	
マネージャー	福永精一	Vc:	鳥丸直子	宮崎晴夫	信田光徳	
		CB:	中田和夫			
		Cemb:	小津久子			